

卒業生の意見を本学の教育・研究の改善に繋げるためのアンケートについて

卒業生の皆様から頂いた貴重なご意見ご提案を踏まえて、広島大学の教育・研究、大学運営の充実に向けた取り組みを行うとともに、更なる改善に向けた検討を行っています。

1. 大学生生活全般について

本学では、大学生生活全般において学生一人一人が社会で通用する基礎力及び実践的応用力を身につけることの重要性を認識しております。

そのための具体的方策として、学生の自発的活動を尊重することを目的とし、授業等の改善、海外留学の推進、地域活動、課外活動及びボランティア活動への支援を行っています。

今後も引き続き、皆様からのご意見等を踏まえ、検証・改善に努めて参ります。

2. 教養教育について

教養教育では「幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する」という教育理念の下、急速に変化する社会情勢や国際情勢にも十分配慮しつつ、継続的な見直し、改革を実行してきました。上記理念に加え、「自ら主体的に考え、問題を発見し、解決する能力を涵養すること」、「グローバルな視野に立ち、国内外で活躍するための能力を涵養すること」を目的としたカリキュラムを実施しています。

2018年度から開設した全学部必修科目「大学教育入門」で、各界の著名人による講演「世界に羽ばたく。教養の力」を実施しているほか、「社会連携科目」では、官公庁や民間機関等の現職の方による授業を展開するなど、社会で活躍されている方々の経験や考え方に触れる機会を提供することで、大学生生活及び将来の職業等を考える上での動機づけを高めております。

また、本学では、グローバル人材育成の一環として TOEIC(R) L&R IP テストを全学一斉に実施し、定められた得点を取得した学生に対して単位を認定しているほか、英語で実施する教養教育科目の充実も図っています。2023年度からは、一部の学部において、英語で実施する教養教育科目において修得した単位を英語の単位に参入することができるようにいたしました。英語以外の初修外国語においても外国語技能検定試験で所定の級位・点数を取得した学生は、単位を認定することができます。加えて、外国語科目（英語以外の初修外国語も含む）では、学内での授業以外にも、本学の海外協定校が提供する語学研修プログラムに参加し、一定の条件を満たすことで単位認定できる制度もあり、学外でより実践的な教育を受けることも可能です。

さらに、本学の理念の一つである「平和を希求する精神」に基づき、平和教育にも力を入れており、全学部必修科目として「平和科目」を開講しています。同科目は本学の教養教育の特徴の一つでもあり、多様な観点から平和を学ぶ機会を提供するものです。平和について考えることを通じて豊かな人間性を涵養するため、科目の充実や教育内容の見直しを継続的に行っております。

2021年度からは、全学生が「AI戦略2019」で目標とされているレベルの能力を習得できるよう「情報・データサイエンス科目」の全学必修化を行いました。この取組は文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」として認定されています。本科目群の学修により、学生の数理・データサイエンス・AIについての興味・関心を高めていけるよう今後も点検、見直しを行ってまいります。

2023年度には教養教育改革として新たに「展開ゼミ」を開設しました。最先端のテーマについて学び討論したり、体験型の学習を行うことを通じて問題発見・解決能力を涵養するとともに、チャレンジ精神、プレゼンテーション力、リーダーシップ力などの向上を図ることを目標に、学部・学年の枠を超えた少人数のクラスで実施してします。

今後も卒業生や学生の要望・意見を踏まえつつ、教養教育の内容を見直し、継続的に改革を行ってまいります。

3. 専門教育について

本学では、2006年度から「教育の質の向上」と「卒業生の質の確保」を目指して「到達目標型教育プログラム（HiPROSPECTS®）」を導入しており、学生が卒業時に身につける知識・能力を担保するとともに、学生の多様な学習意欲に応じています。皆様から専門教育において様々なご意見をいただきましたので、一部を抜粋し、本学の取組を紹介します。

（1）実践的な語学力を身につけることの重要性について

本学の特定プログラムにおいて、「英語プロフェッショナル養成特定プログラム」や「トライリンガル養成特定プログラム」といった高度な語学運用能力を身につける特定プログラムを整備しています。また、2017年度から「Global Peace Leadership Program（GPLP）」を開設しました。GPLPでは、留学支援英語、平和科目（英語）、国際交流科目・フィールド型演習、日本文化、グローバルキャリアデザインの5分野を学ぶことに加えて、2か月～半年程度の海外留学を修了要件としています。学内外で平和について考え、表現することで、語学力だけでなく、多文化社会での課題解決能力やリーダーシップ力、キャリア形成力を徹底的に鍛えています。

（2）専門外の分野を学ぶことの重要性について

「学芸員資格取得特定プログラム」や「社会調査士資格取得特定プログラム」、「学校図書館司書教諭資格取得特定プログラム」といった、資格取得を目指す特定プログラムや「アクセシビリティリーダー育成特定プログラム」、「ダイバーシティ特定プログラム」など、学生の多様な学習意欲に対応し、実務で活かすことのできる技能を修得するプログラムを整備しています。「副専攻プログラム」では、他の主専攻プログラムの基礎・概要等の学修を行うことができ、総合大学の強みを活かして、学生が専門外の分野を学びやすい環境を整備しています。

また、2020年度から「知を鍛えるー広大名講義100選ー」を制作しており、本学の教員が授業や研究内容について分かりやすく解説した動画を公式ウェブサイト上に公

開しています。これらの動画は大学生のみならず、社会人や高校生の方にもご覧いただき、広島大学の「知」に触れていただきたいと考えています。

(3) 実務で活用できる知識や技能を身につけることの重要性について

特に実務の面で、プログラミングやAI等の情報科学分野を学んでおけばよかったというご意見もありました。現在、政府において「数理・データサイエンス・AI教育」が展開されており、本学においても、2021年度に「AI・データサイエンス応用基礎特定プログラム」を開設し、教養教育における「情報・データサイエンス科目」の学修を基礎として、データ分析やプログラミングなど、数理・データサイエンス・AIに関する応用的な知識を広く学び、それを自らの専門分野の研究に応用させることを目指しています。この特定プログラムは、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」の認定を受けています。

今後も、皆様や学生による「授業改善アンケート」等のご意見を踏まえながら、専門教育の取組の発展に努めてまいります。

4. 学生支援について

本学の学生が、入学から卒業まであらゆる面で充実した学生生活を送れるよう、きめ細かな学生生活のサポートを行っています。

学生対応・支援の充実度の中で最も評価が高い項目は、「5.課外活動（サークル）」（88.0%、前回から8.4%増加）となりました。本学では、課外活動施設や福利厚生施設を対象としたネーミングライツの募集やオンラインチャリティイベントへの参加を行うなど、課外活動関連で使用できる資金の獲得幅を拡充しており、今後も課外活動施設の維持管理や助成物品の支給など、更なる充実に努めていきます。ボランティア活動についても、東広島市内各所で行うボランティアに係る交通費は大学で負担する制度を設け学生の負担を軽減するとともに、学生が積極的に参加できるよう情報提供に努めています。

経済支援については、授業料免除や奨学金が受けられてよかったという声が寄せられています。本学では、経済支援制度として授業料免除、入学料免除・徴収猶予制度などを実施しています。さらに、広島大学独自の給付奨学制度として、2008年度から「フェニックス奨学制度」、2017年度からは在学生（3年次生から）を対象とした給付型奨学制度である「光り輝く奨学制度」をそれぞれ実施し、学力が優秀でありながら経済的理由により大学進学や就学が困難な学生を支援する制度を充実させています。

また、2020年度より給付型奨学金と授業料減免制度が一体となった高等教育の修学支援新制度が導入されており、本学も同制度の対象機関として、更に充実した経済支援を行っております。

これらの制度については、広島大学ホームページ（学生情報の森「もみじ」→学生生活のサポート→経済支援）において情報を提供しており、オープンキャンパス等で

も周知していますが、今後その他に有効な周知手段があった場合は、周知方法に追加することといたします。

さらに、本学では、人生経験豊富ななんでも相談員が対応する「学生のためのなんでも相談窓口」やピアサポートルームが行っている「学生による学生のためのなんでも相談」において、随時相談を受け付けています。新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行したことに伴い、学生の活動に限らず、社会全体の動きが活性化していますが、このような周囲の変化とは関係なく、孤独や不安、悩みなどを抱えている学生は少なからずいると思います。不安や悩みの内容に関わらず、どこに相談したらよいかわからず困っている学生のためにも、これらの相談窓口があること、気軽に相談してほしいことを、今後も広く学生のみなさんにお知らせしていきたいと思います。

今回のアンケート調査で皆様から様々なご意見をいただきました「進路・就職支援」について、グローバルキャリアデザインセンターでは、学生が情報を得られる「機会」を提供することを主眼に改善・取り組みを行っています。近年の主な改善・取り組み内容は次に掲げるとおりです。

- (1) 学部 3 年次・大学院 1 年次だけではなく、学部 1 年次から適職診断テストを受けるセミナーを開催したり、大学院進学が決まった学部 4 年次向けなど、各学年に適したガイダンスを開催
- (2) インターンシップについて、広島大学生向けの推薦枠を獲得できるように企業と交渉し、推薦枠を増加
- (3) より実践的体験ができるように、就活が進んでいる首都圏の私大生を交えたグループディスカッション等を企画・実施
- (4) 首都圏の情報が知りたい学生には、東京オフィスの協力を得て、オンラインで相談できるように体制を整備
- (5) 2023 年 9 月より、OB/OG が、どのように働き、どのようなキャリアを積んでいるのかということを知ってもらうために、卒業生に協力していただいて、動画を撮影し、学生や保護者が視聴できるようにサイトを開設。今後、より充実させていく予定

今後も引き続き、皆様からのご意見等を踏まえ、検証・改善に努めて参ります。